

まにわの子



真庭市キャラクター
まにぞう・まにぞうファミリー

令和8年6月17日第10号

真庭市教育委員会学校教育課

6月11日校長会 太田市長からのメッセージ(概要)

日本全国、おおらかさ、やさしさ、やわらかさ、余裕に欠いているように感じている。例えば「衣替え」。暑い寒い感じ方は人によって違う。人権などと言いながら、「ここからここまでこの服」など、おかしいこと。多数に流されなくてもいい。なんでこんな決まりがあるのか、感覚を研ぎ澄まして、学校それぞれでご判断いただきたい。

自分は、人権を大切にしていると思っていたが、「しまったな」と感じたことがあった。久世駅のホームに入る鉄のパイプの仕切りは、車いすが通ることができないということに気づいていなかった。何度も利用していたにもかかわらず。以前から跨線橋の課題についてはJRに何度も伝えていたが、入り口のパイプのことには気が付いていなかった。日本国憲法第13条「すべての国民は、個人として尊重される」を大切にできる真庭でありたいと思っている。

「こども真ん中」も生まれた時から1人の個人としてこどもたちが尊重されることを目指している。学力なども大切だが、こどもたちが何をしたいか自分で考えられる環境を作してほしい。自分探しを自分でできるようないろんな体験をさせてほしい。そして「真庭で育ってよかった」と思うこどもを育てていただきたい。

アブダクション推論と良質のスキーマ

もともと誰でも生まれながらに分析力・推論力・学習力は持っているそうです。ただそれを発揮させられるかどうかは、話しかけられることばの質や量が関わっており、大切であると言われている「思考力」を成長させるには、ことば力を高めることが必要となるそうです。ことば力をつけることで、思考力は飛躍的に高まります。それは意味を覚えるというような単純なものではなく、遊びなどの経験を通して、新しいものに興味を持ったり、感覚としてシンパシーを感じたり、物事の因果関係を考えるようなプロセスを通して育てていくものだそうです。そして、このような無意識にある情報をスキーマといいます。スキーマとは、「意識していない暗黙の知識」＝「外界からの情報を無意識に選択し、行間を埋めて理解（解釈）し記憶している」そんなもので、みんなにあるものです。

そのスキーマを使って人間はアブダクション推論することで、知識の拡張をしているそうです。アブダクション推論とは、正解が一義的に決まらない論理の飛躍を伴う非論理推論で、人間にしかない能力です。これによって、不完全な状態の情報から全体を復元したり、飛躍して結論付けたり、今ここにはないものをつなぎ付けたりすることが可能となりますが、バグの多さが特徴です。バグが新たな発想に結び付き、点でしかなかった知識を面へと導きます。アブダクション推論にとって、間違いは不可避であり、むしろ間違わないアブダクションは何も生まれないそうです。

ただし、良質のスキーマを持てばアブダクションの質も上がるそうで、「生きた知識」を自分で育てることができるこどもを育てるには、「遊びながら学ぶ」「みんなで学ぶ」

「体を動かす」ことが肝要であるようです。 ～「今井むつみ」講演より

